

令和元年度 第3回 泉大津市総合交通戦略策定協議会 議事録【概要版】

日 時	令和2年3月25日（水）午後3時から午後4時
場 所	泉大津市役所 2階 201会議室
出 席 者	大阪産業大学副学長デザイン工学部：吉川 耕司 委員（委員長） 近畿大学理工学部：柳原 崇男 委員（副委員長） 泉大津市総合政策部：中山 秀人 委員 泉大津市総合政策部政策推進課：東山 博文 委員（欠席） 泉大津市総合政策部地域経済課：吉野 久絵 委員 泉大津市健康福祉部福祉政策課：寒 久美 委員 泉大津市健康福祉部工程介護課：向井 由佳子 委員 泉大津市都市政策部土木課：小柴 正行 委員
事 務 局	都市づくり政策課：山野、八木、中村、二俣 中央復建コンサルタント㈱：山室、富久、山根
会 議 次 第	1 総合交通戦略の策定スケジュールについて 2 総合交通戦略の策定状況について 3 来年度の予定について
会 議 資 料	1 総合交通戦略策定フロー（案） 2 総合交通戦略（案） 参考資料1 泉大津市の交通に関するアンケート 参考資料2 臨海部事業所における従業員の通勤実態に関するアンケート

【開会】

- 事務局
- ・現委員数 8 名のうち出席は 7 名で、本協議会の定足数を満たしている。
 - ・委員長は大阪産業大学吉川委員、副委員長は近畿大学柳原委員で決定。

【1 総合交通戦略の策定スケジュールについて】

質疑は特になし

【2 総合交通戦略の策定状況について】

○臨海部へのアクセス強化について

- ・重点施策のうち新規事業と位置付けられる「臨海部へのアクセス強化の検討」については、臨海部事業所へのアンケートより、従業員送迎バスの共同運行へのニーズの低さが明らかとなったことを踏まえ、今後どのように展開していくか。臨海部に行く動機づけとしての賑わい創出等は考えているか。
- ・賑わいの創出で想定しているのは、臨海部における緑道整備である。緑道（大阪府港湾局管轄）整備を進めることで、ウォーキング等に活用されるのではと考えている。そのほかの施設等の整備は、現時点で想定していない。
- ・ふれあいバスなぎさ町停留所は乗降が多い。地区の開発時には、バスが通る計画があったと住民から聞くことがあり、アクセス強化のニーズはあるように思う。ただし、なぎさ町は、泉大津駅まで歩ける距離であり、歩くのが難しい高齢者・障がい者は、ふれあいバスでカバーできている。
- ・臨海部へのアクセス強化は、今後の労働者確保の観点から、自動車を運転できない労働者等の増加を想定し、従業員送迎バスの需要があるのではとの仮定に基づき臨海部事業所へのアンケートを実施したが、倉庫業が多いこと等から、想定より意識がなかった。ただし、一定の利用意向がみられるため、深堀りしていくことを考えている。
- ・なぎさ町は、駅からの自転車利用圏であり、他地域と比較して不便であるとは言えないので、アクセス強化の主たる利用対象者とは考えていない。
- ・臨海部では、大阪府が開発を進めているが、時間的にかなり先であり、現時点では想定しづらい。
- ・本戦略における 2 つの新規施策の 1 つに臨海部にかかる施策を位置づけるのは、荷が重いのではないか。
- ・臨海部へのアクセス強化については、モビリティ・マネジメントとして、事業所への通勤をマイカーから転換してもらえよう働きかける観点から、従業員送迎バスや、駅へのレンタサイクル設置などの検討もある。

○交通事故関連について

- ・「市内で発生する交通事故の 8 割以上が自転車に関連」との記載があるが、担当課では、直近 5 年間の割合を 3 割程度と把握している。
⇒ 自動車どうしの事故件数を含めない数字で整理しているので、記載を見直す。
- ・施策のうち、「①(2)運転免許を自主返納しやすい環境づくり」は大阪府の施策であり、市独自のものではないほか、「①(1)交通安全教室の実施」と合わせて実施することもあるため、記載を除いてはどうか。

- ・必ずしも市独自の実施施策に絞りこむ必要はなく、書き方を工夫すればよい。
- ・市独自の取組みとして、セーフ・コミュニティにおける交通安全対策委員会が実施している取組みを掲載してはどうか。交差点通知簿などの独自の取組みにより、安全・安心に対する意識の醸成につなげている。
- ・泉大津市の自転車教育は、どのようなものか。
- ・高校では、警察が主体として実施するものに市職員が同行している。高校生に対しては、市職員より警察からの話のほうが説得力がある。また、夏休み等には、佐川急便に協力いただき、仲よし学級の子供たち等を対象に、大型車両の危険性について体験する機会を設けている。
- ・警察の交通安全教室は、ルールの周知に留まるため、一般に効果が薄いと言われている。市独自の取組みを考えてはどうか。
- ・去年は、小学校において、校区内の交差点についてビデオを見てもらい、自分たちで交差点通知簿を作成してもらう機会を設けた。自分たちが毎日利用する交差点についての取組みであり、効果を感じた。
- ・その内容は、本戦略で加筆してもよいのではないか。
- ・その他の対応はあるか。
- ・自転車通行帯の整備とあわせた教育があるが、授業時間の関係から拡充は難しい。高齢者には、長寿園等で小学生と同様に対応をしている。高齢者は、事故時の死亡率が高いため、力を入れている。

○徒歩・自転車の方向性について

- ・本戦略の方向性は、市で実施している「あしゆびプロジェクト」を踏まえ、徒歩と自転車により自分で動いてもらうこととしている。
- ・なお、「泉大津市内における道路整備方針」において道路整備施策のひとつに自転車通行空間整備を掲げた意図は、市内及び近隣の高校に通学する学生の自転車利用が多いことを背景とし、路面標示により左側通行の意識啓発を行うことである。
- ・高校生の自転車利用については、自転車通行帯のない道路で道路いっぱいに広がって通行している事例がある。そうした道路でも、左側通行を意識づける取り組みができないか。
- ・学校等で啓発を行っている。ただし、全道路への自転車通行帯整備は難しい。

○ふれあいバスについて

- ・“利用者は、利用対象者の1割未満”との記載があるが、現状では、乗車率が7割程度であり、本当に必要としている人は利用していると考えている。ふれあいバスは今後も継続していく予定であり、書き方を検討いただきたい。
- ⇒ 「現時点では、必要な人には適切に利用されている」ということが分かる表現とする。

○戦略全般について

- ・重点施策のうち新規事業が整理されている。この記載が本戦略の結論ではないことがわかる整理としていただきたい。

- ・現在の資料構成では、新規事業が本戦略の結論であるような記載となっているが、本項目は、来年度も検討を継続する内容である。
- ・総合交通戦略では、総合計画や都市計画マスタープランと異なり、一步踏み込んだ整理としてもよいのではないか。
- ・「北助松駅周辺の交通対策・にぎわい空間整備の検討」は、本戦略で位置づけることで、今後の事業展開に繋げていきたいと考えている。
- ・各課とあわせて進めることが必要な施策がある。本戦略の策定をとおして、泉大津市にとって本当に必要とされている事業が実現するよう、事務局で引き続き改善すること。

【3 来年度の予定について】

- ・北助松駅周辺歩行空間検討のワーキンググループは、どう進めていくのか。
⇒ ワーキンググループでは、柳原先生にアドバイザーとして参加いただく。その他のメンバーは、引き続き検討していく。
- ・協議会の委員に住民が参加するのはいつ頃か。
- ・次回の協議会を想定している。

(以上)